



**「海のお仕事体験プロジェクト
(海と日本2023)」
実施報告書**

目次

- 事業概要 … P2～P3
- 事業実績と総括 … P4～P6
- 事業内容 … P7～P40
 - 体験事業
 - WEB事業
- メディア露出実績 … P41～P46
- 参考資料 … P47～P51
 - 参加者の声
 - 二次的波及（定性的な効果）
 - 漁師の自走化について

事業概要

事業目的	子どもたちが、日常の中では見えにくい「お仕事」に触れることで、「海」を知り、「海」を身近に感じ、「海」の問題を自分ごととして捉え、多角的にモノゴトを捉える視点を養うとともに、「日常生活における意識や行動変化」を起こすこと。
事業目標	<p>●海のお仕事体験プロジェクトの、“プラットフォーム” から “ネットワーク”への進化</p> <p>①“水産”および先進的な取り組みを行う事業者と連携した“次世代”を「テーマ」としたストーリー性あるコンテンツを展開することで、地域・業界を超えた（つながる）、広がりある横断的な取り組みを推進。（2テーマにて特定期間における集中展開企画を実施）</p> <p>② 社会教育機関、行政・企業などと連携を模索し、義務教育の流れから、海の無関心層の興味を引き上げる取り組みを推進（1団体とトライアル）</p> <p>③ 各地のエリア事務局と連携、お仕事体験フランチャイズを展開。各地方から、“お仕事体験”コンテンツの展開と認知の拡大（6エリア12本）</p>
事業内容	<p>【体験事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「海のお仕事」体験イベントの企画・運営 <p>【WEB事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「海のお仕事体験」WEB/SNS発信
コンセプト等	<p>『海のお仕事体験プロジェクト こどもわーく』は、子どもたちが“リアル”な海のお仕事に触れることにより、海水浴等のレジャーとしての「海」だけではなく、私たちの日々の生活を支える産業や文化など多角的な視点からの「海」を知ることで、「海」を身近に感じ「海」の問題をより深く自分ごととして考えるきっかけを創るとともに、その過程で「ものごと」を多面的に捉える力を養ってほしい、との思いで推進している取り組みです。</p> <p>仮想空間ではない「本物の仕事現場」で「本物の仕事」を体験として提供するもので、3C（CHANCE(機会)・CHALLENGE(挑戦)・CHANGE(変化)を子どもたちの成長テーマに据え、そのため、「お仕事」として子どもたちに捉えてもらえるように、楽しいのみならず一定の責任感・緊張感をもって取り組めるストーリーづくりや体験の流れ、スタッフの振る舞いや小道具などを用いて夢中になれる世界観づくりを強く意識しています。</p> <p>また、本プログラムの構築にあたっては、協力事業者において次年度以降の「自走」を前提とした継続実施の可能性を模索した内容および収支計画を念頭においています。</p>

事業実績と総括

□2023年度実績

【体験】

事業者数： 32 社
エリア事務局連携数：5エリア 10本開催
開催総本数：38本 (うち新規:11種、半自走：3種、自走：9種)
参加者総数：456名(親・子含め)

【WEB】

総PV数：171,580回以上
(2023年4月~2023年12月)

【SNS】

LINE会員数：1,576 名

2022年度実績

協力事業者数:25業者
開催総本数：47本 (うち新規:32種・半自走10種・自走5種)
参加者総数：362名(親・子含め)

□2023年度総括と展望

□お仕事体験の総括について

23年度においては、開催地域、地域団体・企業との連携がさらに拡大、事業開始時の2019年から累計して、全国で110種類の海に関わる産業をお仕事体験コンテンツ化を行い、約2,300名の親子が参加しました。また、昨年より注力している地域全体での“面”による企画展開により、下記の成功要因が生まれました。

1. 企業連携による体験の幅出しとメディア露出機会の増加

→ 夏休みにおける「清水港」の集中展開により、行政を始め企業との連携が実現し、港湾物流・造船・潜水士など、海に関わる仕事の幅出しにつながり、新規参加者の獲得および既存ファンのリピート・満足度の向上にも寄与しました。また、行政・企業からのメディアへの働きかけにより、静岡市内の主要メディアも誘致できたことから、「エリア集中展開」「地場の主要企業の巻き込み」がお仕事プロジェクトの推進に大きく貢献することが分かりました。

2. 地場産業の振興・海洋人材の創出を共通目的とした一体感の醸成

→ 各地でプロジェクトを推進する中で、行政・企業・地域団体では「次世代の担い手不足・人材の流出」の課題を共通認識として持ちながらも、団体・業界・地域における慣習が障壁となり、円滑な連携ができていない状況を把握。そこで、「お仕事プロジェクト」がプラットフォームとなることで、幼少期における海洋産業に触れる機会の創出を共通目的に、業態・業界を超えての連携が実現しやすいことを実感しました。

□WEBの総括について

お仕事関連特集の累計閲覧数が約16万回となり、前年比で約101%となりました。また、今年度は一方向の情報発信ではなく、LINE友達会員化への促進を強め、約1,580名の会員化に成功。WEBによる新規ユーザーの体験参加を促しながら、LINEによるリピーターを増やす活動を同時に進めることで、海活動に関わる子どもと、深く・長く海と関わる子どもを増やすサイクルを続けていきます。

□今後に向けた課題

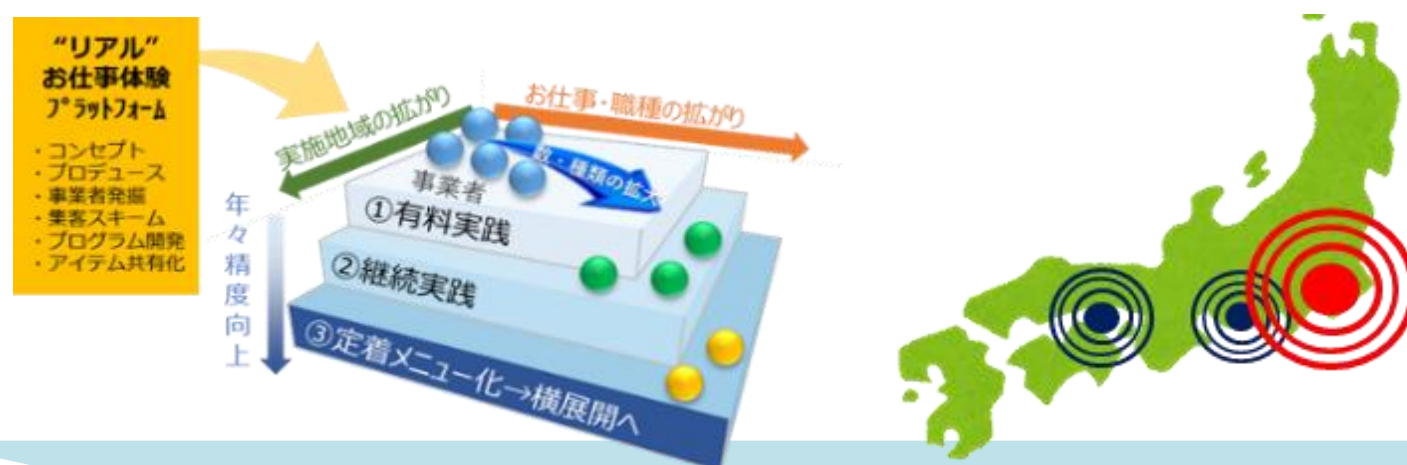
神戸・静岡を始め、地方都市部での開催・メディアの露出を実現して参りましたが、やはり関東圏（東京・神奈川）でのブランディングに資する企画を展開できていない為に、メディア露出が課題となっています。24年度においては、神戸港・清水港における「港企画」をテーマに、「横浜港」での企画展開を実現することで、都市部におけるお仕事プロジェクトの認知拡大に注力します。

□今後の展望について

下記の2点を軸に、海のお仕事体験プロジェクトの取り組みを拡大していくことが、海と日本プロジェクトの活動理念に寄与することはもちろん、各地の行政・企業・地域事業者・教育機関などが一丸となり、自地域の海洋資源を活用しながら、子ども達へ多様な面から地元の海に関わる参画機会を増やす機運づくりに貢献できると考えています。

1. 「漁師のお仕事体験」をはじめとする、横展開がし易く且つ体験自体で収入を得ながら自走を目指すことができる体験事業者を増やすことで、事業者が経済的に自立しながらも社会的に意義のある海活動の継続が可能となり、子どもたちが日本各地でその地域独自の海洋文化を学ぶことのできる状態を目指します。そのために海と日本プロジェクトにおける最低限のルールを担保しながら、新規体験の実施・自走運営に向けた支援（運営責任者の養成・体験ルールの整備等）を継続して実施します。

2. 静岡や神戸港におけるロールモデル（地域全体での企画展開および“港”を中心とした港湾産業の体験プロジェクト）を主要地域に横展開していくことで、お仕事体験のプロジェクトの目的・理念を核に、行政・企業・地域事業者・教育機関業界など業界・業態を超えた連携が実現し、地域の子どもたちにおける海洋産業への振興・教育における海洋学習機会の増加に貢献できると考えています。



-" 海のお仕事体験プロジェクトの“プラットフォーム” から “ネットワーク”への進化 -

23年	漁師	荷揚げ
23年	水産	水族館スタッフ
22年~	水族館	海の飼育員
22年~	流通	豆腐と海
22年~	流通	鮮魚販売

23年	漁師	鮭漁
23年	観光	ライフセーバー

22年~	漁師	佐渡の三枚網漁師
22年~	漁師	里海と里山の漁師
21年~	漁師	佐渡島の漁師

22年~	環境保全	川博士になって来館者を案内
22年~	環境保全	海と川の研究員
22年~	流通	鮮魚販売

20年~	林業	林業
20年~	環境保全	河川整備
20年~	漁師	漁業場

23年	観光	ダイビングスタッフ
22年~	流通	「海辺の朝市」販売
22年~	流通	スーパーお魚売場

22年~	漁師	漁師 (一艘引き漁)
21年~	水産加工	しらす加工
21年~	港湾	テトラポッドを研究開発
19年~	インフラ	ヨットを造る! 運航する
19年~	観光	浜の調理師

22年~	観光	ひがたの貝がらで水鳥の休み場所をつくる
20年~	漁師	漁師(底引き網)
20年~	観光	ウェットスーツづくり
20年~	観光	マリニショップ店員
20年~	観光	海の観光PR
20年~	水産加工	海苔作りのお仕事
19年~	観光	水中カメラマン
19年~	観光	干潟の魅力を伝える
19年~	観光	観光船(イルカウォッチ)
19年~	漁師	漁師(養殖漁)
19年~	保安	ライフセーバー

23年	水産	ひもの加工
23年	水産	ふぐ問屋
22年~	漁師	いりこ漁師
22年~	水産加工	かまぼこ職人

23年	観光	ライフセーバー
23年	漁師	かに漁
23年	観光	観光船
22年~	水族館	カニ水族館

23年	開発	ドローン開発
20年~	流通	鮮魚店
20年~	インフラ	船舶点検
20年~	水族館	水族館飼育員
20年~	メディア	お天気キャスター

22年~	水族館	カメの飼育員	23年	流通	おつまみ商品の開発
22年~	漁師	漁師 (かご網漁)	23年	研究	プラクトンの生態調査
22年~	観光	観光船クルー	23年	観光	御座船の船長
22年~	流通	魚市場スタッフ	23年	流通	サビキ仕掛けの商品開発
22年~	保安	ライフセーバー	23年	水族館	外来生物の展示・飼育
22年~	インフラ	フェリー船員	23年	造船	造船所
22年~	港湾	港湾職員	23年	研究	海洋の未来を考える研究員
22年~	水族館	魚の飼育員	23年	開発	水中ロボット 開発エンジニア
22年~	流通	水産品の開発員	23年	開発	水中ロボットの海洋調査員
22年~	観光	豪華客船クルー	23年	水産	養殖業
22年~	港湾	物流オペレーター			
22年~	研究開発	研究開発員 (魚探)			

19年~	水族館	イルカ飼育員	22年~	インフラ	海にお客さんを遊ぶ鉄道会社
19年~	観光	ネイチャーガイド	22年~	インフラ	海で人や荷物を安全に運ぶ
20年~	観光	新しい観光ツアー開発	22年~	インフラ	フェリーを運航する
20年~	環境保全	サンゴの保全	22年~	観光	まっぶるのキッズ編集委員
20年~	インフラ	船で人やモノを運ぶ	22年~	水族館	幼魚水族館スタッフ
20年~	漁師	深海漁師	22年~	研究所	水産研究員
20年~	漁師	一本釣り漁と魚の出荷	22年~	環境保全	柿田川湧水の環境を守る
20年~	観光	イルカトレーナー	23年	水族館	リマ博士 PR
20年~	漁師	漁師(定置網漁業)	23年	水族館	幼魚水族館の館長
21年~	水産	ひもの作り	23年	研究	ゲノム解析の研究
21年~	農業	わさびの収穫	23年	水産	シーチキンの加工
21年~	水族館	水族館展示用の魚を採集	23年	流通	コンテナターミナル
21年~	水族館	深海魚PR	23年	土木	潜水士
21年~	水族館	海の手配士	23年	造船	造船所
22年~	海上保安	海を守る (海上保安部)	23年	研究	ドローンの環境保全

23年	研究	海底地図&漁師
23年	調査	ドローン 漁場調査
21年~	水産加工	しらす干し加工
21年~	漁師	一本釣り漁と魚を出荷
21年~	漁師	漁師(刺し網漁)
21年~	漁師	キャバツウニの養殖・出荷
21年~	漁師	漁師(フカメ漁)
20年~	水産加工	ひもの作り
20年~	流通	鮮魚店
20年~	漁師	地引網

事業内容 - 体験事業 -

企画設計の要旨等

■コンセプト

体験事業の本質的な目的や世界観づくりに係る指針を策定

【共通テーマ】“実際の仕事現場”で“本物の仕事”体験を“仕事の達人”が提供する。

海を取り巻く現況を海に携わる人から直接子どもたちへ伝える。

“実際の仕事現場”で“本物の仕事”体験を“仕事の達人”が提供する。

日常生活における意識や行動を見直すキッカケを与える。

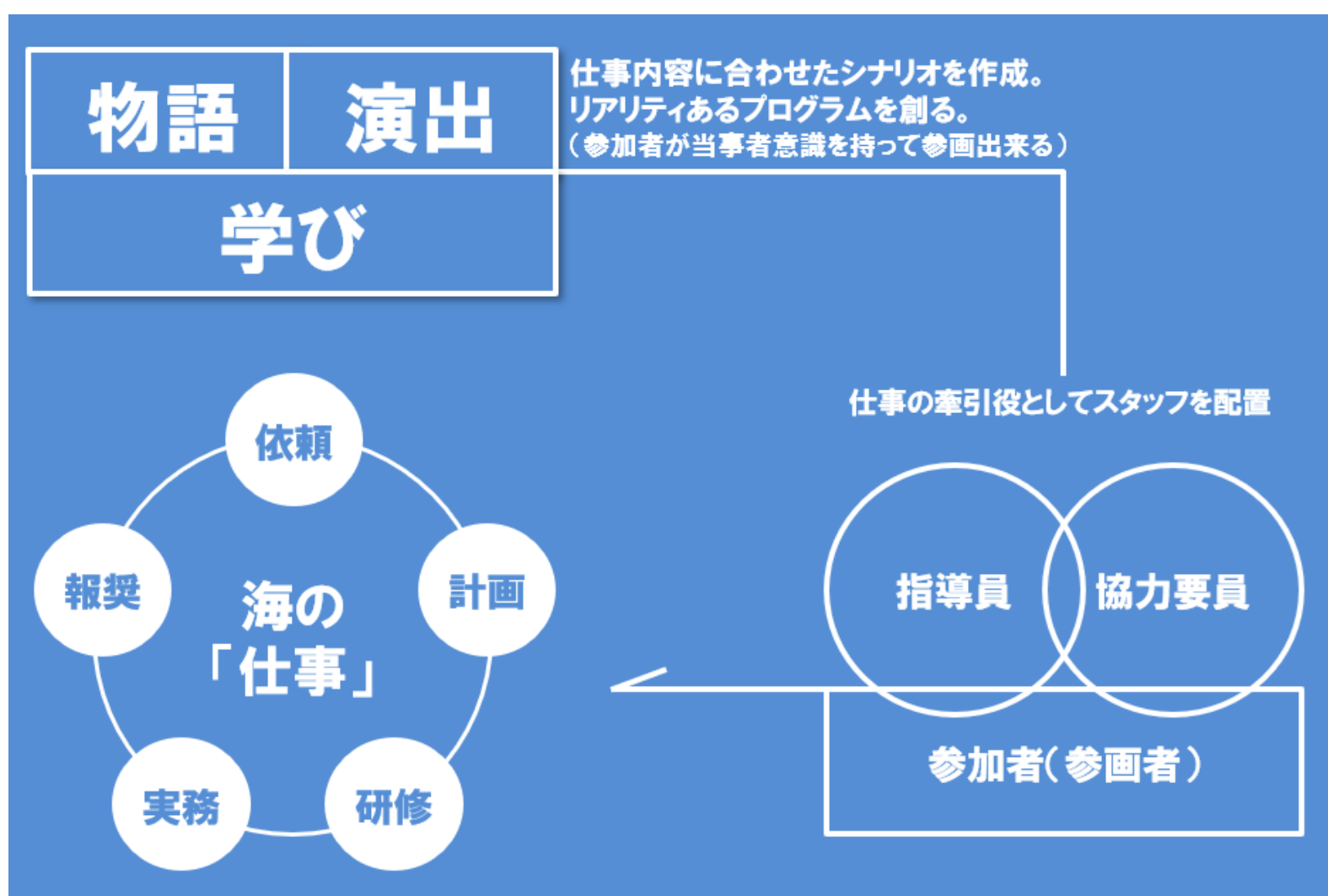
Chance
— 機会 —

Challenge
— 挑戦 —

Change
— 変化 —

■世界観作りの施策

“リアルな”なお仕事体験を創出するためのストーリーを設計



■ お仕事の流れ

全てのお仕事体験にお仕事の流れを組み込み実施しました。

入社式



自己紹介や挨拶を実施。子どもたちの気持ちを「お仕事モード」に切り替える非日常感を演出。

※各お仕事ごとにミッションを用意し、達成に向かって「研修→お仕事」を行いました。

研修



フリップやホワイトボードを用いた座学の実施。お仕事の前段階として知識の素地を作る。

お仕事



1つの作業体験で終始せず、お仕事ミッションに対して複数の「業務」を実践。

レポート作成



お仕事を実施して感じたこと、学んだことを振り返る時間を設け、記憶と記録に残せるように設計。また、自由研究にも活用できるものとして準備。

給与の受け取り



お仕事を終了した証として、給与(イベント専用のお金)と名刺を授与。

お買い物



イベント専用のお金を使い、地域のお店でお買い物。

各イベントの概要等

本年は新規に11の事業者・職種のお仕事体験を開発・開催。
また、継続メニュー確立を目指し、11のプログラムを前年に引き続き実施。さらに全ての継続プログラムに関して、備品やレポートを除く運営部分を、事業者に委託できるレベル(半自走化・自走化)での実施が可能となりました。

■24年度 イベント一覧

新規開発・実施イベント

NO	イベント名	受入事業者名	開催場所	開催日	参加人数
1	あの名物船長と行く！海中の地形と海洋生物を調べるお仕事をしよう！	アジア航測株式会社	神奈川県・三浦	2023年7月29日	13名
2	サクラエビのゲノム解析をして未来の水産資源を守るお仕事をしよう！	一般財団法人マリンオープンイノベーション機構	静岡県・静岡	2023年8月13日	10名
3	"シーチキンができるまで" 製造と検査のお仕事を学んで体験しよう！	はごろもフーズ株式会社	静岡県・静岡	2023年8月24日	16名
4	コンテナターミナルのお仕事をしよう！	鈴与株式会社	静岡県・静岡	2023年8月18日	18名
5	海で活躍する潜水土のお仕事を学ぼう！	一般社団法人潜水協会 中部支部 静岡分会	静岡県・静岡	2023年8月19日	14名
6	幼魚水族館 館長のお仕事をしよう！	幼魚水族館	静岡県・清水町	2023年8月20日	21名
7	特別見学！造船のお仕事を学ぼう！	株式会社三保造船所	静岡県・静岡	2023年8月25日	20名
8	「サメ博士」となって、サメをお客様にPRするお仕事をしよう！	下田海中水族館	静岡県・下田	2023年8月26日	4名
9	水中ドローンを操縦して漁場を調べてみよう！	日本海洋事業株式会社	神奈川県・逗子	2023年9月30日	10名
10	未来の水中ドローンを開発するお仕事をしよう！	株式会社FullDepth	東京都・東日本橋	2023年10月7日	15名
11	ドローンを活用してサンゴ保全のお仕事をしよう！	平沢マリンセンター	静岡県・沼津	悪天候ため中止	-
延べ参加人数					141名

前年度からの継続実施 半自走イベント

NO	イベント名	受入事業者名	開催場所	開催日	参加人数
1	フェリーを運航するお仕事をしよう！	一般社団法人ふじさん駿河湾フェリー	静岡県・静岡	2023年7月30日	7名
2	柿田川湧水の環境を守るお仕事をしよう！	一般社団法人地域みらい創造センター	静岡県・清水町	2023年8月12日	16名
3	漁師のお仕事をしよう！@神奈川県	小坪漁業協同組合	神奈川県・逗子	2023年9月3日 2023年10月8日 2023年10月28日	50名
延べ参加人数					73名

前年度からの継続実施 自走イベント

NO	イベント名	受入事業者名	開催場所	開催日	参加人数
1	テトラポッドで私たちの生活を守るお仕事@茨城県	不動テトラ	茨城県・土浦	2023年7月22日	20名
2	無人島を探検！観光ツアーを作るお仕事をしよう	さいとうスクール	静岡県・下田	2023年7月23日	8名
3	イルカ飼育員のお仕事をしよう！	下田海中水族館	静岡県・下田	2023年7月29日	11名
4	サンゴ保全のお仕事をしよう！	平沢マリンセンター	静岡県・沼津	2023年7月29日	12名
5	漁師のお仕事をしよう！	大洗町漁協	茨城県・大洗	2023年7月29日 2023年8月26日	34名
6	佐渡の三枚網漁師のお仕事をしよう！	あなぐち	新潟県・佐渡	悪天候のため中止	-
7	里海と里山のお仕事を体験しよう！in岩首	岩首談義所	新潟県・佐渡	2023年8月5日 ～8月6日	2名
8	深海漁師のお仕事をしよう！	長兼丸	静岡県・焼津	2023年8月5日 2023年9月2日 2023年9月16日	36名
9	水中カメラマンのお仕事をしよう！	SARAダイビング	千葉県・館山	2023年8月26日	8名
延べ参加人数					131名

エリア事務局連携 開催一覧

NO	イベント名	受入事業者名	開催場所	開催日	参加人数
1	ライフセイバーのお仕事体験～海の楽しさや危機を体験～	皆生ライフセービングクラブ（TSKエンタープライズDC：鳥取）	鳥取	2023年8月19日	4名
2	ライフセイバーのお仕事を世界チャンピオンから学ぼう@山形県	ビーチボーイズ合同会社（テレビユー山形：山形）	山形	2023年8月11日	8名
3	スキューバーダイビング店のお仕事に挑戦！	ロコブルー（TSKエンタープライズDC：島根）	島根	2023年9月23日	8名
4	風光明媚！山陰海岸ジオパークをガイドしよう！@鳥取	山陰松島遊覧船（日本海テレビ：鳥取）	鳥取	2023年10月28日	5名
5	海と川の繋がりを学んで鮭の漁、そして捌き体験をしよう！	箕輪鮭漁業生産組合（テレビユー山形：山形）	山形	2023年11月25日	9名
6	漁師のおしごとを体験しよう@新潟	上越漁業協同組合（NBS長野放送：長野）	長野	2023年11月12日	19名
7	ふぐ問屋の仕事	中崎水産株式会社（KNTテレビ長崎：長崎）	長崎	2024年1月28日	20名
8	カニのお仕事	株式会社中村商店（日本海テレビ：鳥取）	鳥取	2024年1月28日	11名
9	干物づくりや接客に挑戦！	大村湾漁業協同組合（KNTテレビ長崎：長崎）	長崎	2024年3月24日	10名
10	飼育員さんのお仕事にチャレンジ！	蓼科アミューズメント水族館（NBS長野放送：長野）	長野	2024年3月25日	17名
延べ参加人数					111名

事業内容

- 体験事業 -

【海のお仕事体験プログラム】



■各イベントの実施概要 (新規開発実施イベント：全11種/10回開催)

あの名物船長と行く！海中の地形と海洋生物を調べるお仕事をしよう！

お仕事ミッション： どこでどんな魚が釣れるか調査する。海底地形図をどんなことに役立てられるか考える。

【受入事業者】
アジア航測株式会社

【開催日】
2023年7月29日

【開催場所】
神奈川県・三浦

【参加人数】
親子計13名



【研修/実践内容】

- ①立体地形図・測量とは何かを学ぶ
- ②漁場調査に出航（東京湾海底谷）
- ③浅瀬で漁体験
- ④海底地形図を使ったサービスをプレゼンテーション

【体験を通して伝えたいこと】

- ・新しい技術（海底地形の解析）に触れる機会を作り、興味関心を高める

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	5.0
地域性	4.5
自走度	3.5
体験の質	5.0
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、立体地形図を用いながら漁場を調査することで、海の深さや地形が獲れる魚に与える影響を理解し、測量を中心とした技術の開発と新しいサービスがどのように役立つのかを学びました。保護者からは「知識を身につけるワークの時間もあり、学びの機会になりました」等の声をいただき、乗船や釣りといった楽しいアクティビティに紐づける形で、地形や魚種の知識、技術の開発やその活用について、幅広く関連付けながら考えるきっかけになったと推測できます。

サクラエビのゲノム解析をして
未来の水産資源を守るお仕事をしよう！

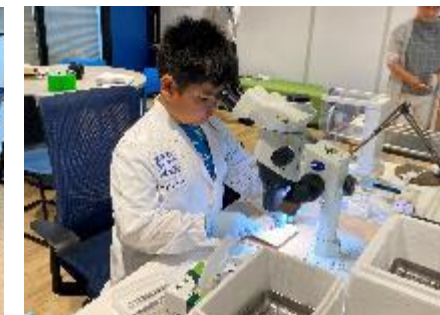
お仕事ミッション： サクラエビのDNAを取り出して、生息域による違いをレポートし、水産資源保護に役立てる。

【受入事業者】
一般財団法人マリンオープン
イノベーション機構

【開催日】
2023年8月13日

【開催場所】
静岡県・静岡

【参加人数】
親子計10名



【研修/実践内容】

- ①サクラエビの生態について学ぶ
- ②サクラエビを研究
- ③研究レポートの作成

【体験を通して伝えたいこと】

- ・生態系の学びが水産資源を守ることに繋がる
- ・身近な生き物のことを考える
- ・研究をすることの魅力を知る

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	4.0
自走度	4.0
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、サクラエビの生息環境や、退化・進化などの生態について学び、顕微鏡を用いて観察したり、計量を行って生息域ごとの違いを比較しました。また、タンパク質を溶かすことでDNAを抽出し、解析するなど研究員の仕事を体験。保護者から「白衣を着て、実際に自分の手や目で観察する貴重な体験にとっても感動しました」等の感想をいただき、さまざまな実験道具や手法を使って、多角的にサクラエビを分析し、レポートする研究の仕事の意義と水産資源保護への可能性への理解へとつながりました。

事業内容

- 体験事業 -

【海のお仕事体験プログラム】



■各イベントの実施概要

"シーチキンができるまで" 製造と検査のお仕事を学んで体験しよう！

お仕事ミッション： シーチキンを安全に出荷するために開缶検査をし、缶詰の品質をチェックする。

【受入事業者】
はごろもフーズ株式会社

【開催日】
2023年8月24日

【開催場所】
神奈川県・三浦

【参加人数】
親子計 16名



【研修/実践内容】

- ①シーチキンができるまでの工程を学ぶ
- ②加工食品が消費者の手に届くまでの安全性について学ぶ
- ③食品加工作業の一部を実際に体験
- ④商品の出荷作業

【体験を通して伝えたいこと】

食卓に並ぶシーチキンの缶詰がどのような流れで作られるのかを学んでほしい。体験を通して、食品加工のお仕事を身近に感じてほしい。

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	5.0
地域性	4.5
自走度	3.5
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、シーチキンの工場を見学し、食品加工の過程を学び、実際に商品の缶を開封しながら、出荷前最後の工程である品質チェックの仕事を体験しました。保護者からは「家庭に身近な缶詰の製造を見られたことがとてもよかった」等の声をいただき、日常的に食卓に上がるおいしく便利な加工品について、原材料となるマグロやカツオといった水産資源と環境のことも考えながら、その奥深さを知り、子どもたちの興味関心の幅を広げるきっかけになりました。

コンテナターミナルのお仕事をしよう！

お仕事ミッション： コンテナの外部・内部を点検し、海外へ荷物を送るための空のコンテナを用意する。

【受入事業者】
鈴与株式会社

【開催日】
2023年8月24日

【開催場所】
静岡県・静岡

【参加人数】
親子計 18名



【研修/実践内容】

- ①港湾物流のお仕事を学ぶ
- ②コンテナターミナルの見学ツアー
- ③輸送コンテナのチェック作業

【体験を通して伝えたいこと】

普段生活している中では知ることのできない港湾物流という仕事について、今回の体験をきっかけに学んでほしい。

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	4.5
自走度	4.0
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、港湾物流やコンテナターミナルの仕組みや役割を学び、広大なコンテナターミナルを屋上から見渡して、港の規模の大きさを感じながら、そのうちの1つの空のコンテナを点検して用意する体験を行いました。保護者から「物流の話を子供のレベルに合わせて説明してくださり、子供が興味深く聞いていたことが印象に残りました」という感想から、生活で手にする衣類、機械、食べ物など一見海とは関係なさそうなものの多くが、海上の物流によって手元に届き、そこに人が丁寧に関わっていることをイメージするきっかけになったと推察できます。

事業内容 - 体験事業 -

【海のお仕事体験プログラム】

■各イベントの実施概要

海で活躍する潜水士のお仕事を学ぼう！

【受入事業者】
一般社団法人潜水協会
中部支部 静岡分会

【開催日】
2023年8月19日

【開催場所】
静岡県・静岡

【参加人数】
親子計 14名



お仕事ミッション： 浅瀬に潜り、水中でのねじ締めやフック通しに挑戦し、協力して海の障

【研修/実践内容】

- ① 潜水士の仕事を学ぶ
- ② 潜水士がどんな環境で働いているのかを学ぶ
- ③ 海中の潜水士とお話をする
- ④ 海中の障害物を調査する

【体験を通して伝えたいこと】

海で活躍する潜水士という仕事を知ってほしい。
安全な海を守るためには、何ができるのかを考えてほしい。

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	3.5
自走度	3.5
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、潜水士がどんな仕事か、どんな場所で活躍しているのかを学び、酸素ボンベの着用体験やゴーグルとシュノーケリングを装着して浅瀬での潜水体験、無線で水中の潜水士と会話したり、海中の異物を撤去する体験を行いました。保護者からは「普段経験できない事をさせていただき、とてもためになったと思います。将来海に関する仕事に就きたい娘の視野が広がったと思います」等の声をいただいた。子どもたちは実際に身体を動かして潜水士の仕事の大変さや面白さを理解し、水温・海流・天候といった自然条件の知識の重要性を学び、港湾や漁港、河川やダムなどで安全を守る潜水士の存在をより身近に感じました。

幼魚水族館 館長のお仕事をしよう！

【受入事業者】
幼魚水族館

【開催日】
2023年8月20日

【開催場所】
静岡県・静岡

【参加人数】
親子計 20名



お仕事ミッション： 幼魚の生態を理解しながら、幼魚の魅力をも最大限引き出す展示を考え、発表する

【研修/実践内容】

- ① 水族館に来るお客様の観察
- ② 幼魚の生態、環境を学ぶ
- ③ 展示をする水槽の準備や水質管理、餌やり
- ④ 水槽展示のキャッチコピー作成

【体験を通して伝えたいこと】

小さな体でたくましく生きる進化や工夫、幼魚のデリケートな生態と生育環境、海の偉大さ/感謝の心、仕事の面白さ

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	5.0
自走度	4.5
体験の質	4.5
子どもの熱中度	5.0

子どもたちは、全国でも珍しい幼魚水族館を見学し、飼育の方法や展示の工夫を館長から聞き、自分たちで展示水槽のコンセプトとキャッチコピーを考え、艦長にプレゼンする体験を行いました。保護者から「鈴木館長がプレゼンのポイント、キャッチフレーズをつくる時のポイントなどもお話をいただき、深い学びになったと思います」という感想から、幼魚の繊細な生態を理解し、適切に飼育しながら、来館した人に幼魚の魅力を最大限伝えるための「伝え方」「プロデュース力」という視点で、主体的な学びの機会を得たと推察できます。

■各イベントの実施

特別見学！造船のお仕事を学ぼう！

お仕事ミッション： 漁師に必要な漁船の造船工程を学ぶ

【受入事業者】
株式会社三保造船所

【開催日】
2023年8月25日

【開催場所】
静岡県・静岡

【参加人数】
親子計 20名



【研修/実践内容】

- ① 船の種類、大きさについて学ぶ
- ② 船の作り方を学ぶ
- ③ 船ができるまでの工程を学ぶ
- ④ 船の模型をつくり造船を体験

【体験を通して伝えたいこと】

船がどのように作られているのか造船所見学や実技を通して楽しみながら学んでほしい。船をつくる仕事の魅力を感じてほしい。

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	4.5
自走度	3.5
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、造船所内を歩いて工程を理解しながら、船がどんな場所でどのように作られているのかを学びました。見学だけでなく、実際に手を動かして模型のパーツを組み合わせて船をつくる体験も。保護者からは「造船所の見学は初めてだった。ドッグと海面の高さなど、実際に見て分かることもあり楽しかった」等の声をいただき、子どもたちは実物の大きさを体で感じながら、それまで完成形しか知らなかった船のつくりを理解し、職人さんの技術を間近で見ることで、海や船にまつわる仕事をする人をより身近に感じました。

「サメ博士」となって、サメをお客様にPRするお仕事をしよう！

お仕事ミッション： サメの飼育体験と標本作りを通してサメの魅力を知り、水族館のお客さんにPRする

【受入事業者】
下田海中水族館

【開催日】
2023年8月26日

【開催場所】
静岡県・下田

【参加人数】
親子計 4名



【研修/実践内容】

- ① サメについて授業形式で学ぶ
- ② 飼育にチャレンジ (飼育水槽見学、餌作り、給餌)
- ③ サメをとことん調べよう (標本用サメの観察および種類検索など)
- ④ PRプレート作成

【体験を通して伝えたいこと】

生きたサメや貴重なサメの標本などに触れたり、水族館のサメの飼育員にお話や質問を通して、サメや飼育員の仕事に魅

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	4.0
自走度	4.5
体験の質	4.0
子どもの熱中度	5.0

子どもたちは、水族館で本物のサメを間近で見学し、サメの飼育を行っている施設で餌作りと給餌の体験を行いました。世界中に約450種いるといわれるサメについて、形、生息環境、生活スタイルなど専門的な話を飼育員さんから聞き、サメの標本を作ったり、来館者に向けたPRを考える体験も。保護者から「サメに詳しい人から話を聞けるのはとても貴重な体験だったと思います。子供がサメが好きでも、親は詳しくないので対話できるところはありがたいです。サメ標本作りなんてとても嬉しそうでした」という感想から、サメや海、魚が好きな子どもたちにとって、サメの魅力をより専門的に知り、より身近に感じる体験であったと推察できました。

事業内容

- 体験事業 -

【海のお仕事体験プログラム】



■各イベントの実施概要

水中ドローンを操縦して
漁場を調べてみよう！

お仕事ミッション： 水中ドローンを使用して漁師さんの漁場の「磯焼け」の実態を調査し、報告する

【受入事業者】

日本海洋事業株式会社

【開催日】

2023年9月30日

【開催場所】

神奈川県・逗子

【参加人数】

親子計16名



【研修/実践内容】

- ① 海洋調査とは何か？
- ② 漁場調査（水中ドローンの点検確認～洋上で操縦＆観察）
定
- ③ 漁場の調査報告書を漁協に提出

【体験を通して伝えたいこと】

自分の手で水中ドローンを操縦して、普段見えない海の中の様子を見ることが出来る。新しい技術は海でどのように活用されるのかを体験する。漁師さんと共に漁場に出向き、海の

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	3.5
自走度	3.5
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、温暖化の影響で海藻が枯渇する「磯焼け」の問題に直面する漁師さんと一緒に、船に乗って水中ドローンを使って漁場を調査し、報告する体験を行いました。保護者からは「実際の調査研究に利用する機材を用いて海の中を観察できて、子どもたちは楽しかったようです」等の声をいただき、子どもたちは海中において海藻があるとところと枯渇しているところを実際に目で見て比較し、温暖化の影響を肌で感じると同時に、新たな技術の活用による問題解決の可能性を感じ、海洋や技術について学ぶ意欲が高まりました。

未来の水中ドローンを開発する
お仕事をしよう！

お仕事ミッション： オーダーに応じて必要なパーツを組み合わせて、目的を叶える水中ドローンを開発する

【受入事業者】

株式会社FullDepth

【開催日】

2023年10月7日

【開催場所】

東京都・東日本橋

【参加人数】

親子計10名



【研修/実践内容】

- ① 「開発の仕事って何？」を学ぶ
- ② 水中ドローンの仕組みと、活用方法を知る
- ③ 水中ドローンを操縦してみる
- ④ キッズ開発会議＆プレゼンテーション

【体験を通して伝えたいこと】

- ・水中ドローンという技術をもとに、海中の課題を知る
- ・新しい技術に触れる機会を作り、興味関心を高めます。

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	4.0
自走度	4.5
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、開発のお仕事とは何かを学び、水中ドローン操縦の体験を経て、深海魚捕獲かダム補修、海中地図制作のテーマから選んで企画会議で提案をする体験を行いました。保護者から「夢を形にする一つのモデルを教わった」という感想から、自分が大好きな深海魚を自分で捕まえてみたいという夢を追求して水中ドローンの会社を作った社長さんの体験談が、子どもや保護者にとって、好きなことを突き詰めて新たなチャレンジをする後押しとなったと推察できます。

事業内容

- 体験事業 -

【海のお仕事体験プログラム】



■各イベントの実施概要（半自走 実施イベント：全3種/5回開催）

フェリーを運航するお仕事をしよう！

お仕事ミッション：出港前の確認や出航後の船内巡視を体験し、フェリーを安全に運行するお仕事をする。

【受入事業者】
一般社団法人
ふじさん駿河湾フェリー

【開催日】
2023年7月30日

【開催場所】
静岡県・静岡

【参加人数】
親子計 7名



【研修/実践内容】

- ① フェリー船のお仕事とは？の研修
- ② 船内巡視、船長室の見学
- ③ 船内放送（参加者の中から数名限定）
- ④ 他、船内業務のサポート

【体験を通して伝えたいこと】

- ・船の安全運行
- ・海の魅力を知る

【コンテンツ自己評価（5点満点）】

独自性	3.5
地域性	4.0
自走度	4.5
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、出港前の綱取りを見学し、船内巡視で安全や快適さを保つための確認をしたり、船内アナウンスで船窓から見える景色を解説したり、乗船客に船旅を楽しんでもらうためのお仕事体験を行いました。操縦室見学では船長目線で駿河湾を一望し、保護者から「普段入れない場所に入れたり、操縦させてもらえたり、とても貴重な体験でした」という感想から、子どもたちは海と船の知識と、それぞれの役割をもって仕事するクルーの存在があって、安全で快適な船の運行が実現していることを学んだと推察できます。

柿田川湧水の環境を守る
お仕事をしよう！

お仕事ミッション：貴重な固有種ミシマバイカモを守る環境保全活動を体験する

【受入事業者】
一般社団法人
地域みらい創造センター

【開催日】
2023年8月12日

【開催場所】
静岡県・清水町

【参加人数】
子ども：9名



【研修/実践内容】

- ① 柿田川湧水の自然環境を学ぶ
- ② 海とのつながりを学ぶ
- ③ 外来種植物の駆除
- ④ 伊豆固有生物の調査

【体験を通して伝えたいこと】

- ・環境保全活動の意識づけ
- ・「水」について考えるキッカケ

【コンテンツ自己評価（5点満点）】

独自性	4.5
地域性	5.0
自走度	4.0
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、日本三大清流の一つ、富士山の湧水を水源とする柿田川で環境保全活動を体験しました。川に入って、ミシマバイカモという、一度は絶滅の危機に瀕した貴重な固有種とよく似た外来種を集めて運び、身近な自然に触れるなど、合わせて柿田川の生態系も学びました。保護者からは「柿田川の保全に多くの人に関わっていることを知ることができました。子どもが積極的に作業しており、とても良い経験ができました」という感想から、豊かな自然環境と生態系のバランスを保つ上での人の働きとの大切さを学んだと推察できます。

■各イベントの実施

漁師のお仕事をしよう！

お仕事ミッション： 刺し網漁法を体験し、多様な魚種を学び、普段食べている魚が食卓に届くまでの源流を知る。

【受入事業者】
小坪漁業協同組合

【開催日】
2023年9月3日
2023年10月8日
2023年10月28日

【開催場所】
神奈川県・逗子

【参加人数】
親子計 50名



【研修/実践内容】

- ① 刺し網漁法の研修
- ② 実際の漁師船に乗船
- ③ 荷揚げの手伝い、魚の選別

【体験を通して伝えたいこと】

- ・刺し網漁法の学び
- ・小坪で獲れる魚の特徴など
- ・魚食文化への感謝

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	4.0
自走度	4.5
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、逗子の小坪漁港で刺し網漁の方法を学び、前日に仕掛けた網を巻き上げ、かかった魚をかぎ針で外す体験を行いました。獲れた魚一匹ずつの名前と特徴を学びながら選別作業も体験。フグが食べたタイ等の残骸が複数網にかかっている様子を見て、保護者からは「温暖化によってフグが増え、タイなどの魚が食べられてしまうことを知って、生態系への影響に衝撃を受けました」という感想もあり、実物を見て海で起こっていることについて漁師さんから解説を受ける経験が、海の環境や生態系への関心を高めるきっかけになりました。

■各イベントの実施概要 (自走 実施イベント：全9種/11回開催)

テトラポッドで私たちの生活を守るお仕事

お仕事ミッション：ミニチュア制作や消波実験を通して、テトラポッドの役割や適切な置き方を考える

【受入事業者】
不動テトラ

【開催日】
2023年7月22日

【開催場所】
茨城県・土浦

【参加人数】
親子計 20名



【研修/実践内容】

- ① 海の世界学習
- ② テトラポッドの消波実験
- ③ ミニチュアテトラポッド制作

【体験を通して伝えたいこと】

- ・海の世界学習
- ・研究職への関心（職種紹介）

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	4.5
自走度	4.0
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、座学やテトラポッドのミニチュア制作、消波実験やプールでの実験の見学を通して、テトラポッドの構造や役割、置き方の工夫を学びました。保護者からは「『この実験だけでなく普段の生活でも観察したり、やってみることを意識してみてください』という話がありがたかったです」という感想から、波の原理などの知識の重要性と、地震や津波災害が多く起きやすい日本において、防災の工夫を研究する仕事の重要性を理解し、関心を深めるきっかけになったと推察できます。

無人島を探検！ 観光ツアーを作るお仕事をしよう

お仕事ミッション：無人島の地形・地質、植生等を調査し、見どころを伝えるオリジナル観光マップとコース名を考える

【受入事業者】
さいとうスクール

【開催日】
2023年7月23日

【開催場所】
静岡県・下田

【参加人数】
親子計 10名



【研修/実践内容】

- ① ジオパークガイドとして観光マップ制作
- ② 島の磯の生物、地質、植物など基礎知識や特徴を学ぶ
- ③ 観光MAPづくり

【体験を通して伝えたいこと】

- ・海の生態系の学び（磯の生物を知る）
- ・海への関心向上（海の世界現象を知る）
- ・他者への海の魅力の発信/波及（レポート作成）

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	5.0
自走度	4.0
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、ジオパークに登録された伊豆半島で、ジオガイドさんと一緒に無人島を調査し、見どころを伝えるためにマップ化、体験コースづくりのお仕事を行いました。保護者からは「こんなに魅力的なところに来ることができて、魚や海が好きな息子だけでなく、娘もとても楽しんでいました。子供達にいい思い出ができました」という感想から、人に伝えることを目的に主体的に地形・地質、植生や生態の見どころを学び、陸地や地形への影響という観点から海のはたらきやエネルギーを知って、魅力や楽しさを実感しました。

■各イベントの実施概要

イルカ飼育員のお仕事をしよう！

お仕事ミッション：イルカの生態を理解し、飼育員の仕事を通してイルカを元気にしてあげよう

【受入事業者】
下田海中水族館

【開催日】
2023年7月29日

【開催場所】
静岡県・下田

【参加人数】
親子計 12名



【研修/実践内容】

- ① 生態学習
- ② 調餌（包丁で魚を切る）、給餌（実際の仕事と同じように、餌の計測・準備、給餌などを体験）
- ③ トレーニング:イルカショーの演技指導の見学・実践、サインのしくみ、サインのコツと練習など

【体験を通して伝えたいこと】

- ・海の生態系の学び、環境問題の自分ゴト化

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	3.5
地域性	3.5
自走度	5.0
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、座学でイルカの生態を学び、飼育員さんが日頃行っている調餌・給餌、イルカショーのための演技トレーニングの見学と実践しました。保護者からは「イルカにエサをあげたり、指示をしたりと貴重な体験ができました。今以上にイルカに興味をもてたと思います」という感想から、イルカや水族館が好きな子どもたちが、水族館で実際にイルカに触れ、現場で働く飼育員さんから、どのような視点でイルカの体調を気遣い、接しているかを知って、興味関心の対象と、そこで働く人を結びつけて考えるきっかけになったと推察できました。

サンゴ保全のお仕事をしよう！

お仕事ミッション：海中に落ちている折れたサンゴを拾って植樹し、魚のすみかであるサンゴ礁を再生しよう

【受入事業者】
平沢マリンセンター

【開催日】
2023年7月29日

【開催場所】
静岡県・沼津

【参加人数】
親子計 12名



【研修/実践内容】

- ① サンゴの生態学習
- ② 海洋学習
- ③ サンゴの植樹

【体験を通して伝えたいこと】

- ・海・サンゴの環境保全
- ・環境保全への小さなチャレンジ

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	5.0
自走度	5.0
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、サンゴの生態についてや海洋についての学習を行った後、シュノーケリングの練習をし、折れているサンゴを拾って植樹し再生する体験を行いました。保護者からは「海から出てきた子どもの顔を見てとても満足そうだった。海を守る活動もやりたくなった」という感想から、子どもたちは美しい海に潜る楽しさを実感し、海を守るためにできる具体的な活動を知って、今ある環境をより良く保ちながら、未来につないでいくことに対して主体的に考えるきっかけを得たと推察できます。

■各イベントの実施概要

漁師のお仕事をしよう！@大洗

お仕事ミッション：全国でも珍しい一艘引き漁に挑戦し、新鮮な魚を届ける仕事をしよう

【受入事業者】

大洗町漁協

【開催日】

2023年7月29日

【開催場所】

茨城県・大洗

【参加人数】

親子計 34名



【研修/実践内容】

- ① 一艘引き漁の網の引き上げ作業
- ② 漁の特徴説明
- ③ 漁業/魚食文化への課題確認
- ④ 穫れた魚の試食（漁で穫れた魚によって実施します）

【体験を通して伝えたいこと】

- ・魚食文化 / 漁法からの学び
- ・海洋資源 / 従事者の学び
- ・感謝

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	4.0
自走度	5.0
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.0

子どもたちは、図やクイズを通して、魚の習性ととも到大洗で実際に行われている一艘引き漁について学び、実際に乗船して漁を体験することで、魚が食卓で届く以前にどこでどのように獲られているかを学んだ。保護者からは「船に乗って漁師さんのお話が聞けて、子どもが面白そうでした」という感想から、子どもたちが漁師さんから直接海の環境や魚の生態や習性、漁の工夫、魚の捌き方やおいしい食べ方を学んだことで、リアリティの伴った知識を得、海を大切に思う気持ちを高めることができたかと推察できる。

水中カメラマンのお仕事をしよう！@千葉県

お仕事ミッション：水中カメラマンの仕事を学び、実際の海の環境を撮影し、レポートする

【受入事業者】

SARAダイビングサービス

【開催日】

2023年8月26日

【開催場所】

新潟県・佐渡

【参加人数】

悪天候のため中止



【研修/実践内容】

- ① 水中カメラマンの仕事内容
- ② 撮影方法の学び
- ③ 生物の保護

【体験を通して伝えたいこと】

- ・海の世界学習
- ・海の産業の幅

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.0
地域性	4.5
自走度	5.0
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子ども達は水中カメラマンのお仕事の依頼を受けるところから始まり、発注内容を達成するための撮影方法や泳ぐ技術などを学びました。子どもたちは水中カメラマンとして【館山の海の魅力を伝える水中写真を撮影すること】をミッションにお仕事を通じて、海洋生物の保護や海洋環境問題点などを実体験で深く学びました。

■各イベントの実施概要

里海と里山のお仕事を体験しよう！in岩首

お仕事ミッション：小さな集落で、里山とも海とも密接に関わる離島漁師の仕事を体験する

【受入事業者】

岩首談義所

【開催日】

2023年8月5日～8月6日

【開催場所】

新潟県・佐渡

【参加人数】

親子計 2名



【研修/実践内容】

- ① 魚の獲り方、道具の使い方を学ぶ
- ② 漁場の見学や定置網の仕組み、魚のさばき方を学ぶ
- ③ 海と山（棚田）の関係を学ぶ

【体験を通して伝えたいこと】

- ・佐渡の海の幸、山の幸の素晴らしさ、離島の暮らし
- ・食材への感謝、漁業と農業のつながり

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	4.5
地域性	4.5
自走度	5.0
体験の質	4.5
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、佐渡の東南部にある小さな集落・岩首で、漁業と棚田での稲作を行う漁師さんの仕事を体験。漁港からすぐの海の水深が深く、岸からも大きな魚の姿が見え、背後は里山にもすぐ近い場所に。保護者からは、「貴重な体験をすることが出来ました。大きな真鯛が獲れたことに驚きました。綺麗な棚田をまた見に来たいです」という感想から、子どもたちは地形的特徴と海で育つ魚の大きさを間近で見て実感し、風の見方や潮の流れの見極め方を習うなど、自然を読み自然と共生する生活を体験できたと推察できます。

深海漁師のお仕事をしよう！

お仕事ミッション：深海漁師さんと船に乗り、仕掛けを使って深海魚を捕獲し、仕分けしよう

【受入事業者】

長兼丸

【開催日】

2023年8月5日
2023年9月2日
2023年9月16日

【開催場所】

静岡県・焼津

【参加人数】

親子計 36名



【研修/実践内容】

- ① 深海漁のお仕事
 - ┆ 深海生物・漁法の学び
 - ┆ オオグソクムシ漁
 - ┆ 仕分け、仕掛けの片付け

【体験を通して伝えたいこと】

- ・深海への興味 / 漁法からの学び
- ・海洋資源/従事者の学び、感謝

【コンテンツ自己評価 (5点満点)】

独自性	5.0
地域性	4.5
自走度	5.0
体験の質	4.0
子どもの熱中度	4.5

子どもたちは、深海生物や漁法の学習の後、乗船して深海魚の延縄漁を体験し、かかった深海生物を仕分ける体験を行いました。その日かかった深海ザメの解体の様子も見学。保護者からは「普段では絶対に体験できないことが体験でき、とても子どもたちにとって良い刺激となりました」という感想から、さまざまな種類の深海生物に触れ、体のつくりも実物を見て、解明されていないことの多い深海や深海生物について、さらに関心を高めるきっかけになったと推察できます。

■各イベントの実施概要（エリア事務局 5地域、コンテンツ種10種開催）

「本物の環境で、本物の達人、本物の仕事を学ぶ」をコンセプトに、地域に紐づくお仕事体験コンテンツを通じて、好奇心や感受性を刺激し子どもたちの「生きる力」をはぐくむお仕事プロジェクト事務局と連携。2023年4月～2024年3月の間、イベント実施事業者の選定、イベント企画・運営及び取材・放送等を行いました。

イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinながさき

イベント1：ふぐ問屋のお仕事をしよう！

受入事業者名	中崎水産株式会社
開催日	2024年1月28日(日曜日)
開催場所	長崎県長崎市
参加人数	親子計 20名
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <p>①茂木地区の特徴や獲れる魚の種類の講義 中崎水産のお仕事の講義 ②ふぐを触る、ふぐ捌きの見学 ふぐの身洗い体験 ③食育事業「ふぐの皮を使用したかんぼこ作り体験」</p> <p>【体験を通して伝えたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふぐは昔は9月ごろから獲れていたが今は海水温の上昇により3月ごろから獲れ始める。環境問題との関係性。 ・ふぐは身だけでなく、様々な部位が食べることができること。 ・高級食材でもあるふぐを、かまぼこにしたりうどんなど身近なメニューで食べることで、身近に感じるとともに他の魚介類への関心も高めること。
当日レポート	ふぐ問屋での仕事を体験。まず茂木地区の海について学び、その後加工場へ移動。実際にふぐを捌いているところを見学しながら、ふぐの生態などをクイズ形式で学びました。ふぐ捌きを見学した後は、ふぐの身洗いを実際に行い、加工の大変さを実感。その後、中崎水産が市内の小学生を対象に行っている食育事業「ふぐの皮を使用したかんぼこ作り」を体験。毒のあるふぐを安全に美味しく食べれるのも、ふぐ問屋、職人さんがあってのこそだと改めて実感したようです。



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinながさき

イベント2：大村湾漁業協同組合の職員になろう！

受入事業者名	大村湾漁業協同組合
開催日	2024年3月24日(日曜日)
開催場所	長崎県西彼杵郡時津町
参加人数	親子計 10名
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大村湾についての講義 ②魚を捌いて、ひものづくりに挑戦 ③商品の梱包、レジ打ち <p>【体験を通して伝えたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所で朝早くから買えるのは、その前から作業をしているスタッフがいること。 ・大村湾についての課題
当日レポート	<p>大村湾漁業協同組合のお仕事体験をしました。まずは大村湾について、仕事内容の説明を受け、その後直売所へ移動し、イサキの干物づくりを体験。1人5匹ずつくらい背開きの体験をしました。干物づくり体験終了後は商品へのラップ包装・レジ打ちも体験。朝早くから直売所で買い物ができるのも、早くから仕込みをしている大村湾漁業協同組合の職員さんがいるからだと改めて実感したようです。</p>



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinとっとり

イベント1：風光明媚！山陰海岸ジオパークをガイドしよう！

受入事業者名	山陰松島遊覧
開催日	2023年10月28日（土）
開催場所	鳥取県岩美町
参加人数	親子計 5名
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <p>①山陰海岸ジオパークや岩美町の魅力について学ぶ。観光客や乗客に向けてガイドをすることでアウトプットする。</p> <p>②ガイドをする上で、どのように説明すれば魅力が伝わるかを考え工夫し、発信することを学ぶ。</p> <p>③ライフジャケットの着用方法や船の点検、気象のチェックなど 乗客や船員の安全や命を守るための学び。</p> <p>【体験を通して伝えたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い年月をかけ形成された地元に残る自然の大切さ ・乗客に楽しんでもらうとともに、安全を守ることへの責任感を育む
当日レポート	<p>まず、山陰松島遊覧の遊覧船船長より浦富海岸について学びました。何万年、何千万年の月日をかけて岩の変化が島となり、現在の美しさとなっていることや国内TOPクラスの透明度であること、また遊覧船でのガイドで伝えたいことや伝え方についても学び、参加した子どもたちがガイドとなれるように台本を作成しました。また、船のエンジンの場所、エンジンのかけ方、エンジンをかけたあとに必ず確認すること、ライフジャケットの保管や確認、操縦席の仕組みや操縦席での仕事内容も体験。子どもたちは、当たり前にある場所となっていた浦富海岸について深く知ることができ、とても興味深そうにしていました。</p>



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinとっとり

イベント2：鳥取を代表する冬の味覚 絶品極上の蟹に触れて市場体験

受入事業者名	株式会社 中村商店
開催日	24年1月28日（日）
開催場所	鳥取県鳥取市
参加人数	親子計 11名
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <p>①松葉がにの競り場見学 ②中村商店がどのようなお仕事をしているのか講義 ③蟹が売り場に並ぶまでの工程体験（運ぶ・茹でる・洗う） ④新鮮な蟹を美味しく食べる方法を知る</p> <p>【体験を通して伝えたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月6日に解禁となる松葉がには、資源保護の観点から禁漁期間が地域ごとに定められていること。 ・2023年は気温上昇の影響で、海水温が例年に比べ高く、温暖化が松葉がににどのような影響があるのかを学ぶ。 ・売り場に並ぶまでの工程を体験することで、鳥取の水産業を身近に感じてもらうこと。
当日レポート	<p>朝一番に鳥取漁港で行われる「競り」を見学。掛け声や動作のあまりの速さに子どもたちは驚きを隠せず、真剣な眼差しで見入っていました。その後、「松葉がにが商品になるまでの工程」を学ぶため、水槽から自分で松葉がにを「取って」、「しめて」、「洗って」、「茹でる」体験を。茹でている間に、中村商店からの「クイズ」で松葉がにについて楽しく学び、気温上昇の影響についてもお話しいただいた。また体験の一環として、モサエビの商品を均等に販売するための重さ当てクイズをしながら陳列も体験。競りや市場の仕事を楽しみながら体験できたことで、子どもたちの将来の職業選択肢が増えたと親御様からのお声もいただきました。</p>



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinしまね

イベント1：ライフセーバーのお仕事体験～海の危険・安全・楽しさを体験～

受入事業者名	皆生ライフセービングクラブ
開催日	2023年8月19日(土曜日)
開催場所	鳥取県米子市
参加人数	親子計 4名 ※募集時
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <p>①水温測定、水深チェック、ビーチクリーンなど海水浴場オープン前の活動 ②海岸パトロール、監視本部無線連絡、遊泳客への注意喚起アナウンスなど ③レスキューボードを使ったライフセーバーのトレーニング ④海上から水上バイクで監視</p> <p>【体験を通して伝えたいこと】 海の事故を防ぐ活動を行うライフセーバーの活動を学ぶと共に、海の魅力や楽しさを体験。</p>
当日レポート	<p>米子市の皆生海水浴場には、県内外から多くの遊泳客が訪れる。遊泳客の安全を守る皆生ライフセービングクラブの活動体験に小学生2人が参加しました。 (申し込みは4人だったが、体調不良により2名参加)</p> <p>活動内容の説明を受けた後、まずは水温測定。そして海に入って離岸流や水深を調べました。砂浜にはプラスチックや花火の残骸などがある。裸足で遊ぶ遊泳客のため、ごみ拾いも行い、遊泳可能を知らせるフラッグを立てオープン準備が完了。上記の事から、事故を未然に防ぐ活動も、ライフセーバーの役割であることを学びました。</p> <p>オープンした後、海岸パトロール体験がスタート。危険がないかを確認し、監視本部に無線連で報告した。さらに、この日の最高気温は35.0℃と猛暑日。熱中症を防ぐため「熱中症に気をつけてください」と呼び掛けるアナウンスも体験しました。そして、レスキューボードの乗り方や使い方について指導を受けた。また、水上バイクでの監視も体験。</p> <p>参加者は「大変だったけど、お客さんも楽しそうで頑張ってたよ良かった」と満足げでした。海の状況は日々変化することや、ライフセーバーの活動の幅広さ、事故を未然に防ぐ活動が大切なことを実感できたと思われれます。</p>



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinしまね

イベント2：スキューバダイビング店のお仕事体験

～海の楽しさ・水中の美しさを感じよう！スノーケリングに挑戦～

受入事業者名	カフェ&スキューバダイビングサービス「ロコブルー」
開催日	2023年9月23日(土曜日)
開催場所	島根県松江市島根町
参加人数	親子計 8名
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <p>①海岸のごみ拾い&海や海岸の状況を確認 ②ショップに来られた方への接客を見学 ③スノーケリング体験（海中の様子や、魚や貝を観察） ④カフェで接客体験（保護者をお客様に見立てドリンクをサービス スノーケリングで見た海中の様子や魅力、危険を伝える）</p> <p>【体験を通して伝えたいこと】 海の魅力をお客様に伝えるダイビングショップの仕事を学ぶとともに、日本海の美しさ、海中の楽しさを体験。海の危険についてや、危険を回避する手段も学ぶ。</p>
当日レポート	<p>松江市で、ダイビングショップのお仕事体験を開催。ダイビングショップの仕事を学ぶとともに海の魅力を体験するプログラムに、小学生4人が参加。</p> <p>ダイビングショップのスタッフから、仕事内容の説明を受けた後、仕事のフィールドである海岸のごみを拾い、お客様に危険がないよう、海や海岸の状況を確認。スノーケリングの指導を受け、海の危険を回避するノウハウなども学び、スノーケリングに挑戦しました。</p> <p>その後、併設されるカフェで、保護者をお客様に見立てて飲料などをサービスし、スノーケリングで見た海中の様子や魅力などについて伝えました。</p> <p>「フィンが重たかったけど、きれいな海や魚を見て楽しかった」「海中は自然であふれている。海岸にごみがあったので美しい自然を守りたい」などの声が聞かれ、海の魅力や海洋ごみ問題を捉えた様子。保護者からは「なかなかできない体験」「初めての体験に、子供の成長が見てとれた」などの声が聞かれました。</p> <p>ダイビングショップの仕事は、潜る事だけでなく、お客様の安全確保を事前に行う事、海を脅かす海洋ごみ問題にも向き合うということを実感できたと思われまます。</p> <p>※ライフジャケットは、2022年度のライフジャケットレンタルステーション事業で、松江市に設置されたレンタルステーションから借用した。</p>



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトin山形

- ① ライフセーバーのお仕事を世界チャンピオンから学ぼう@山形県
- ② 海と川の繋がりを学んで鮭の漁、そして捌き体験をしよう！

実施期間	2023年8月11日、2023年11月25日
参加者計	第一弾：親子8名 第二弾：親子9名
企画名	海のお仕事体験プロジェクト
概要	「本物の環境で、本物の達人、本物の仕事を学ぶ」をコンセプトに、地域に紐づくお仕事体験コンテンツを通じて、好奇心や感受性を刺激し子どもたちの「生きる力」をはぐくむお仕事プロジェクト事務局と連携。 イベント実施事業者の選定、イベント企画・実施及び取材・放送を行った。
当日レポート (ライフセーバー)	第一弾：ライフセーバー 水難事故の防止や事故が発生した際に救助活動を行う【ライフセーバー】。このライフセーバーのお仕事を子供たちが体験するイベントが遊佐町で開催されました。このイベントの講師はライフセービング世界チャンピオンの経歴を持つプロライフセーバーの平野修也さん。ビーチボーイズ合同会社の深瀬代表から海辺での危険についてお話を聞き、バギーに乗って実際に海水浴場のパトロールを体験しました。また、海にはどんな危険な場所があるか、どんなところを見ているのか海に入り学びながら体験しました。そして水上バイクに乗るという貴重な体験に子供たちの盛り上がりは最高潮となりました。夏には多くの海水浴客が訪れる海。海辺での命を守る知識とライフセーバーのお仕事の重要性を学ぶきっかけとなりました。
当日レポート (サケ漁)	海から鳥海山麓の牛渡川を遡上してくるサケを採捕する箕輪鮭漁業生産組合。遊佐町の貴重な資源であるサケを守るためにどんな仕事をしているのか佐藤組合長から話を聞きました。まずは、遊佐町の豊かな周辺環境について学び、実際に鮭の追い込みをする様子と孵化場の見学し、海と川を繋ぐサケの“命の流れ”について学ぶことができました。続いて、サケを採捕し、さばく体験をしました。サケが通れないようにするしきり“ウライ”の中から網を使ってサケを引きあげます。サケはオスとメスで顔が違っているので、自分たちで見て選別を行います。実際に生きているサケの迫力や重さに子供たちは大盛り上がりでした。 その後、実際に親子でサケを一匹捌く体験をしました。普段捌くことのない大型のサケを親子で懸命に捌きました。子供たちはサケの皮の硬さに苦戦しながらも、慣れない包丁で骨に身が残らないように丁寧に三枚おろしに挑戦しました。魚を捌くことの大変さと楽しさを身をもって体験することができました。「是非調理して美味しく召し上がってください。」とのことで、この捌いたサケはお仕事の報酬として持ち帰りました。



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinなごの

イベント1：魚種豊かな能生漁港で、1日漁師さん体験

受入事業者名	上越漁業協同組合 能生支所
開催日	2023年11月12日(日曜日)
開催場所	新潟県糸魚川市
参加人数	親子系 19名 ※募集時
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①. 座学 水揚げからお店までの経路について ②. 漁の道具(カニかご・ロープ)のお手入れ ③. 水揚げした魚の選別作業 <p>【体験を通して伝えたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんのおしごとを体験することで、海を仕事場にする責任感を学ぶ。 また、水産物が食卓に並ぶまでに様々な人の支えがあることを学ぶ。
当日レポート	<p>新潟県糸魚川市の能生漁港。近隣に著名な道の駅があり、長野県民にもよく知られる漁港で漁師さん体験イベントを開催。当日は長野県をはじめ隣県各地から7名の小学生が参加。まずは座学で能生漁港の特徴と水揚げされた水産物の流通経路を学びました。</p> <p>能生漁港の特色や、漁師さんの仕事の範囲、セリで買ってもらうための工夫など、丁寧な説明に子供たちからもたくさんの質問が飛び交いました。続いては、屋外の選別場へ移動して、漁の道具の手入れと魚の選別を体験。カニ籠の手入れでは少しでも籠にほつれがあると魚が失敗してしまうことを学び、漁師さんの仕事の細やかさを学びました。</p> <p>魚の選別では、水揚げされたばかりの魚を種類別に分ける作業も。11月の海から取れた魚は非常に冷たく、また海の生物特有のぬめりもあり、子供たちは苦戦。手作業で素早く仕分けるベテラン漁師さんの手際に関心しつつも、終盤にはしっかりと作業がこなせるようになっていました。参加者は「漁師さんの手先の細かさと知識に感心した」と満足げだった。この体験を通して、食卓に水産物が並ぶまでに、漁師さんをはじめ多くの仕事の支えがあることを学び、感謝の気持ちがより強くなったと思われれます。</p>



イベント詳細

団体名：一般社団法人 海と日本プロジェクトinなごの

イベント2：日本一標高の高い水族館で飼育員さんのお仕事にチャレンジ！

受入事業者名	蓼科アミューズメント水族館
開催日	2024年3月25日(月) 10:00~13:00
開催場所	長野県茅野市
参加人数	親子計 20名
研修内容 ／研修目的	<p>【研修/実践内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①. 海や川の生き物を取りまく環境変化・課題について ②. 飼育活動における基礎行動を学ぶ (手洗い・衛生管理) ③. 生き物への餌やり、清掃活動 <p>【体験を通して伝えたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水族館の学術的、文化的な役割について ・生物を扱う責任感、生物が生きる環境を人工的に作ることの難しさ
当日レポート	<p>日本一標高の高い水族館「蓼科アミューズメント水族館」で飼育員体験を行いました。イベントを開催した蓼科アミューズメント水族館は規模は小さいものの、衛生管理や生物の生息環境づくりに定評があり、その裏側を覗ける良い機会となりました。体験の中で徹底したのは「手洗い」。デリケートな生物に余計な菌を与えないように作業の合間ごとに3分程度の入念な手洗いをを行い生物を扱う責任の大きさを子どもたちと共有。また、水槽清掃は一般来場者が行きかう水槽で行い、来場者の注目を引きつつ、来場者に仕事内容を説明する機会にもなり、多くの刺激が得られたようです。プロの飼育員は、清掃活動の際に魚の泳ぎ方や動きを見ながら健康状態を把握するそうで、仕事の奥深さに子供たちの関心も高まりました。子どもたちからの反省では、生き物の生息する環境を創り出す自然の力のすばらしさや、その自然を守るために必要なアクションは何か、ということが挙げられました。水族館の学術的な役割や、飼育員さんの仕事の大変さ、自然環境の偉大さを学べる体験プロジェクトになりました。</p>



制作物

■基本運営マニュアル

各事業者が、体験実施後に自走化しやすいように運営マニュアルを整備。「海と日本プロジェクト ロゴの掲出」等、実施事業におけるルールなども明確化しました。

海のお仕事プログラムの提供価値

実際の実施のポイント

プログラム作りのポイント①-⑧

体験の質を担保する人数と金額を設定

体験造成ヒアリングポイント(エクセルフォーマット有)

必要備品チェックリスト (FMTあり)

運営時の注意点

報告用の必須内容

PR時の注意点

■名刺

お仕事終了後に当日のお仕事の講師から「修了証」の位置付けで子ども達に配布。同僚(他の参加者)や講師と名刺交換も行いました。



中央には、子どもたち一人ひとりの名前を記入しました。

※こちらは、「海底地形を航空測量するお仕事」のものとなります。全てのお仕事で各お仕事に沿った制作物を用意し運営致しました。

■制作動画 (10本)

イベント名

水中ドローンを操縦して漁場を調べてみよう！	サクラエビゲノムを解析するお仕事をしよう！
水中ドローンを開発するお仕事をしてみよう！	幼魚水族館 館長のお仕事をしよう！
海中の地形と海洋生物を調べるお仕事をしよう！	コンテナターミナルのお仕事をしよう！
造船所のお仕事を学ぼう！	
フェリーを運航するお仕事をしよう！	
潜水士のお仕事を学ぼう！	



水中ドローンを操縦して漁場を調べてみよう



水中ドローンを開発するお仕事をしてみよう！



名物船長と行く！海中の地形と海洋生物を調べるお仕事をしよう！



特別見学！造船所のお仕事を学ぼう！



フェリーを運航するお仕事をしよう！



海で活躍する潜水士のお仕事を学ぼう！



サクラエビのゲノムを解析して、未来の水産資源を守るお仕事をしよう！



世界初！幼魚水族館「館長」のお仕事を体験しよう！



<https://www.youtube.com/@kodomowork/videos>

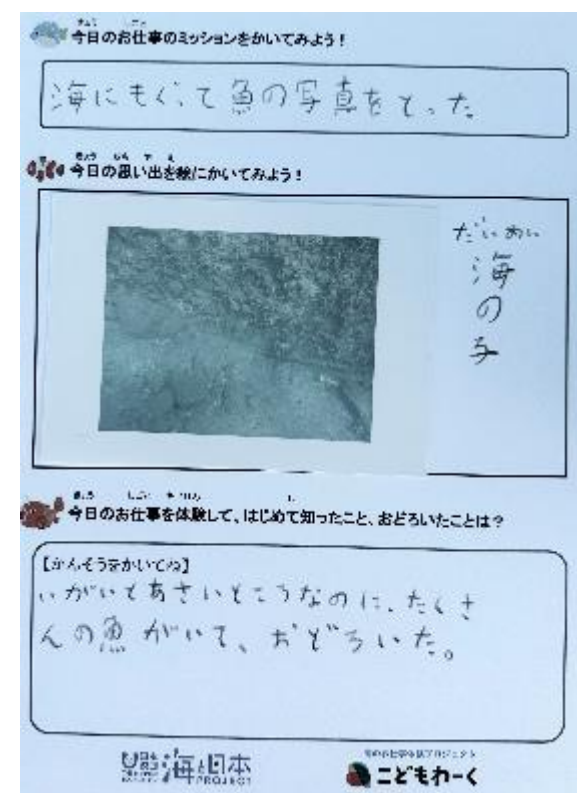
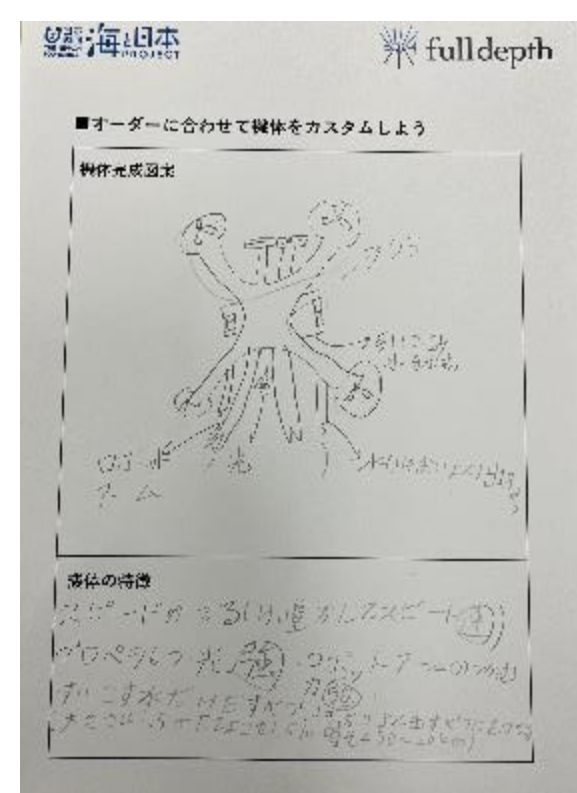
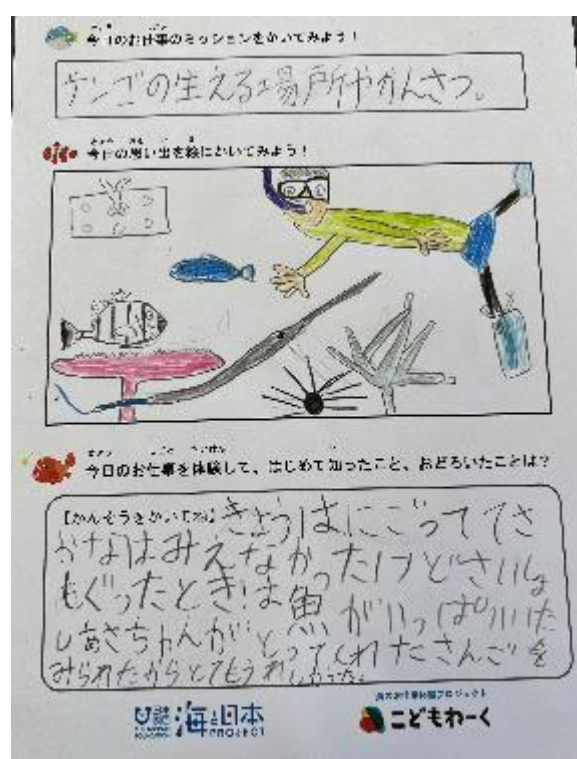
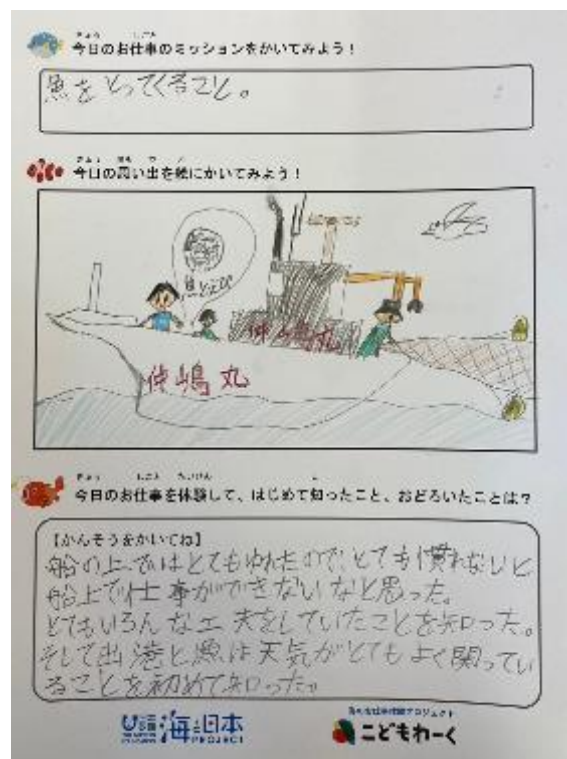
■ イベント総括補足資料 (子どもたちのアウトプット (日報) ※一部)

子どもたちがお仕事の最後に日報を作成 (お仕事の振り返り)



子どもたちのアウトプット (日報) ※各お仕事毎に専用のフォーマットを用意

お仕事の大げな学びを
絵と共に振り返る。



事業内容 – WEB・SNS事業 –

WEBページ

トップページ



海のお仕事体験プロジェクトは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環としての取り組みです。

こどもわーく



こどもわーく 海のお仕事体験プロジェクト。

「リアルな仕事」をテーマにしたお仕事体験プログラム

「本物の環境で、本物の達人、本物の仕

2023年の特別イベント



お仕事体験イベント






もっと見る

活動実績

10県で71コンテンツの体験を実施!



もっと見る

LINE公式アカウント

友達登録しよう

友だち登録すると最新情報が届きます。
ぜひLINEで友だち登録をしてください。

LINE 友だち追加

Instagram

イベントレポート

海のお仕事体験プロジェクト 公式HP
<https://kodomowork.net/>

海のお仕事体験プロジェクトのページを、
 スマホに最適化したデザインにリニューアル。

新規参加者やリピーターの方が、
 様々な海のお仕事体験に参加するように、
 イベントの一覧、これまでの実績動画、
 開催地域、SNSへの導線などを整備しました。

また、夏休み期間の目玉企画である、
 「神戸港」や「清水港」などの特集企画の導線
 を、
 TOPに配置し、企画への誘導を行いました。

海のお仕事を知ろう

海の安全を守る

海を調べる

海を伝える

観光を支える

食を支える

人の命を守る

人や物を船で運ぶ

船を造る

自然のめぐみを支える

主催：一般社団法人地域みらい創造センター

企画/監修：アクトインディ株式会社

共催：日本財団 海と日本プロジェクト



本プロジェクトは次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人をつなげる日本財団「海と日本プロジェクト」の一環です。

こどもわーくのSNS



WEBページ

23年度のエリア集中展開企画である「こどもわーく in 清水港」の特集ページを立ち上げました。7月・8月に清水港における「海のお仕事」に焦点をあて、お仕事体験イベント開催プログラムを一覧にして、各イベント詳細を簡単に確認出来るようにしました。

トップページ

静岡県 清水港で海のお仕事体験プログラムを開催

こどもわーく

7.30 >> 8.25

こどもわーくは「リアルな仕事」をテーマにした体験プログラム。本当の仕事現場で、いきいきと働く大人たちのワクワク・ドキドキのふれ合いにより、好奇心や感受性を刺激することで、子どもたちの「生きる力」を育みます。

清水港 海のお仕事体験

港湾物流、水産加工、海洋研究、漁船業、旅客船業（フェリー）、潜水士など、海に關わるお仕事体験を幅広く展開し、豊かな静岡の海を産業の面から、子どもたちに知る機会を提供します。なお、本事業は次世代へ豊かな海を引き継ぐために、海を介して人と人をつなげる日本財団 海と日本プロジェクトの一環です。

期間：2023年7月30日（日）～8月25日（金）
開催場所：静岡県 清水港
参加費：小学生のお子様とその保護者

こどもわーく夏祭り in 伊豆半島 WEB
URL https://iko-yo.net/topics/kodomowork_shimizu

清水港で開催されるお仕事体験イベント一覧を掲載。子どもたちへ参加意欲を高めさせ、イベント期間中にリピートできるように日程、場所をわかりやすく掲載した。

イベント告知とともに、お仕事体験会員を増やすLINEアカウントへの導線も確保。

開催プログラム

特別見学！造船のお仕事を学ぼう！

造船は見るだけでない造船所を見学！船はどうやってできるのか知り、造船について学んでみよう！

日程：8月25日（金）
対象：小学生以上のお子様

[詳しくはこちら](#)

キッズ潜水士として海の調査をしよう

清水港で働いている潜水士が具体的にどんな仕事をしているのかお話を聞き、潜水士の試験を受けて、キッズ潜水士になってみよう！

日程：8月19日（土）
対象：小学2年生以上のお子様

[詳しくはこちら](#)

研究者としてサクラエビの生態を調査

普段入ることのできない研究所を舞台に、キッズ研究者となって、サクラエビが育つ環境や生態系について学び、実際の調査・分析をしてみよう！

日程：8月13日（日）
対象：小学4年生以上のお子様

[詳しくはこちら](#)

“シーチキンができるまで”製造と検査のお仕事を学んで体験しよう

普段、見るだけでないシーチキンの製造工程を1から学べる施設を見学します！学ながら、安全・安心な製品がみなさんの食卓に届くまでの秘密を探りましょう！

日程：8月17日（木）
対象：小学生以上のお子様

[詳しくはこちら](#)

フェリーを安全に運航するお仕事に挑戦

フェリーを安全に運航するために、どんな人が、どのようなお仕事をしているのか？ お仕事を

私たちの生活を支えるコンテナターミナルのお仕事をしよう

日本の生活を支える港湾物流のお仕事を近く初

対象：小学生のお子様

[詳しくはこちら](#) [詳しくはこちら](#)

★LINE公式アカウントの友だち登録しよう

リアルお仕事体験 こどもわーくのLINE公式アカウントができました。こどもが参加できる最新イベント情報を発信します。ぜひフォローしてください

[友だち追加](#)

共催・協力

主催：一般社団法人 地域みらい創造センター
協力：日本財団 海と日本プロジェクト
静岡県工務局 海のみらい静岡支店の会
美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会
企画・監修：アクトインディ株式会社

日本財団 海と日本プロジェクト

さまざまながたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

日本財団「海と日本プロジェクト」

WEBサイトの定量指標等

■ WEBサイト PV等

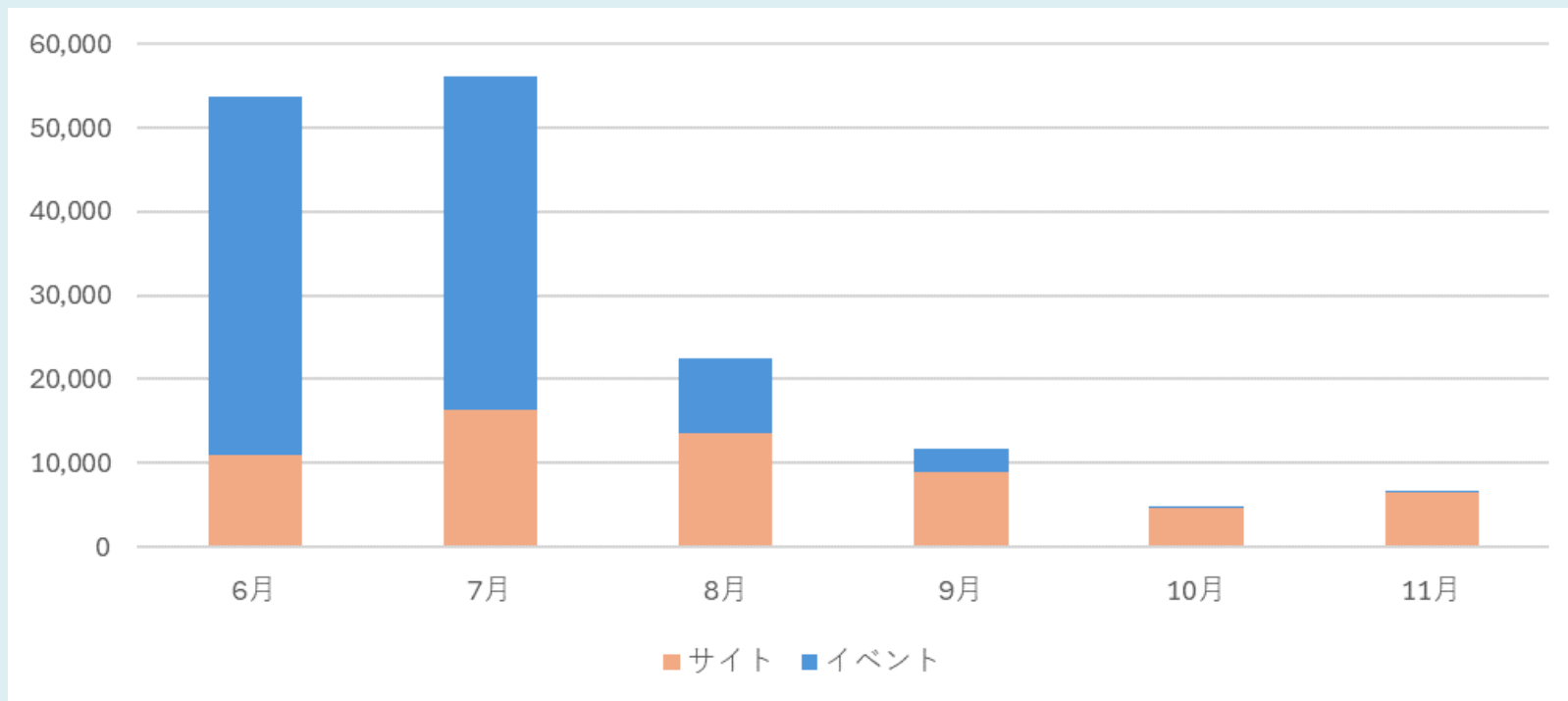
こちらは、メインの告知/開催期間である2023年6月～12月までのデータ

海のお仕事体験関連ページ 総閲覧回数

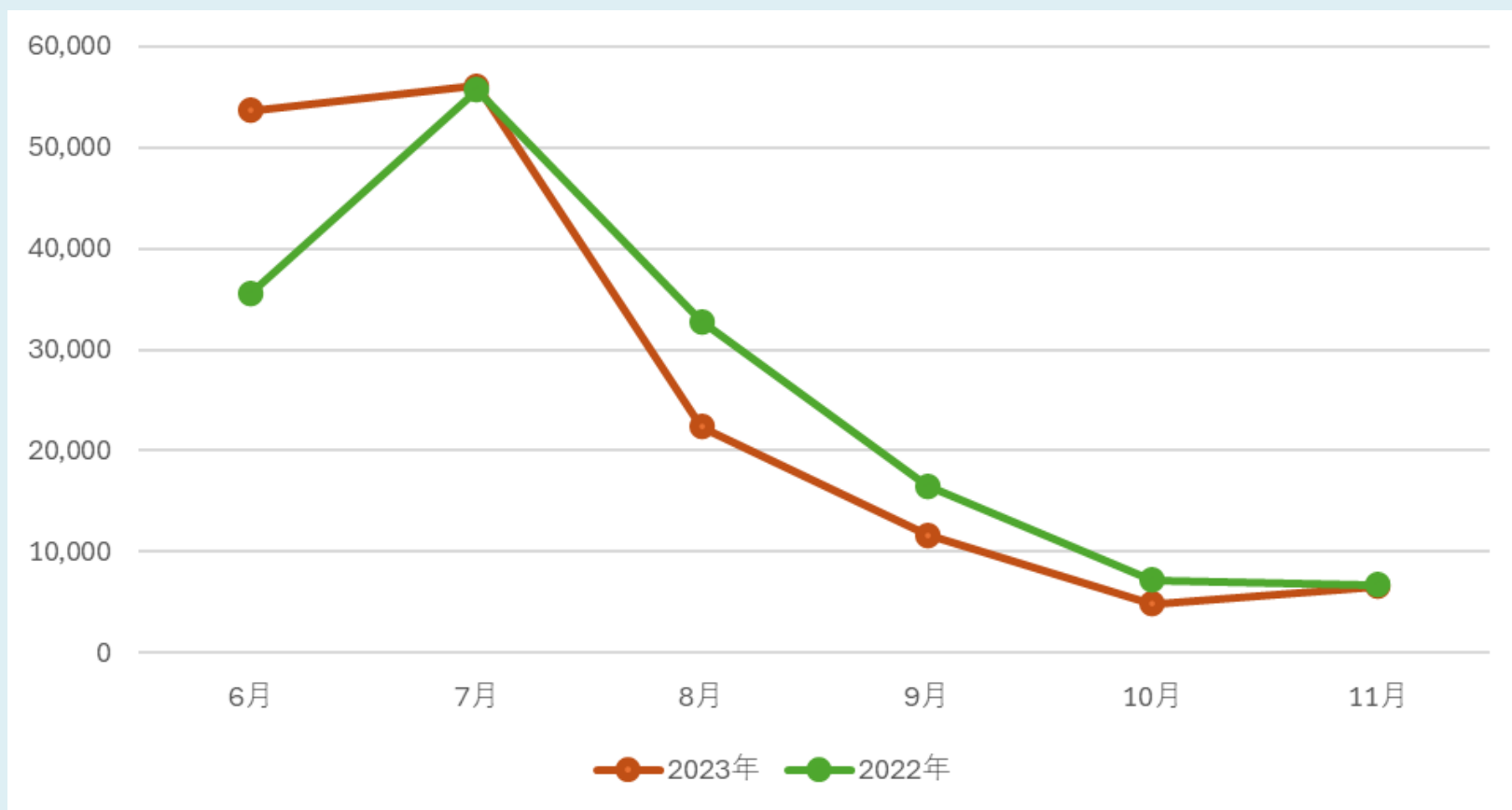
159,122回

 (昨年同月比 101%)

海のお仕事図鑑とお仕事イベントの閲覧回数



海のお仕事体験 PV昨対比較



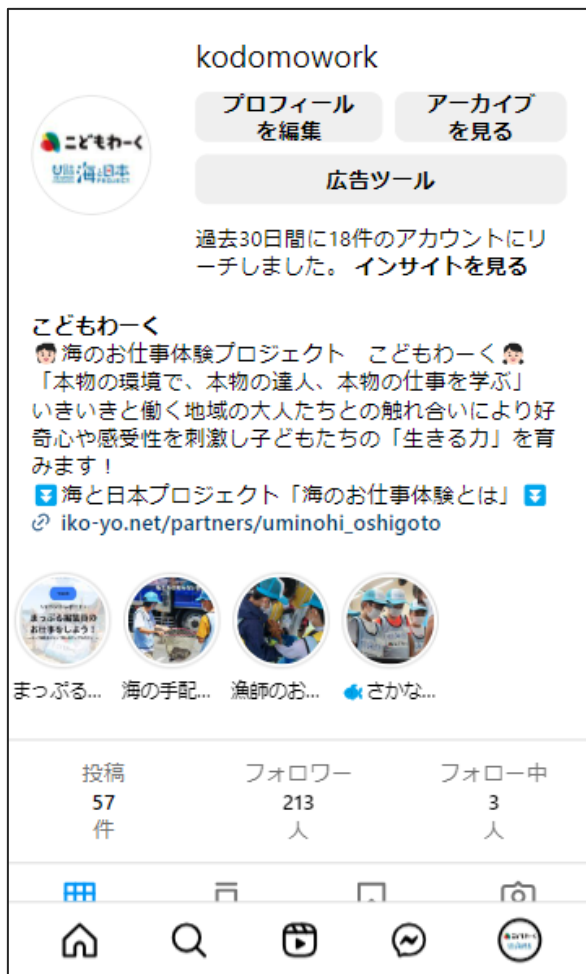
今年度は一切のコロナ影響もなく、夏休み期間（7月～8月）において、体験コンテンツの展開を集中開催できたため、前年よりも早期の告知開始が可能となり、6月～7月における閲覧数がピークとなった。

SNS運用



■ こどもわーく LINEアカウント

23年度は、“友だち数”約**1,500名以上**突破。
海のお仕事体験プロジェクトのファンを育て、増やして、様々な地域の体験を発信することで、地域を超えた海のつながりの輪を全国へと広げていく。



■ こどもわーく Instagram

お仕事体験のイベントレポートや、リアルタイムのストーリーズを投稿。体験レポートをストックしていくことで、2年目以降の集客時の告知はもちろん、お仕事全体のブランディングにつなげる。

メディア掲出実績

■ サクラエビのゲノムを解析して、
未来の水産資源を守るお仕事をしよう！

■ 私たちの生活を支えるコンテナターミナルのお仕事をし
よう！ in清水港

テレビ静岡 8月13日放映

[動画リンク](#)



静岡朝日テレビ 8月18日放映

[動画リンク](#)



テレビ静岡 8月18日放映

[動画リンク](#)



TV番組特集

6月10日（土）NHKサタデーウオッチ「海業特集」
小坪漁港における刺し網漁師のお仕事体験が放映されました。
また、水産庁による漁港の利活用をテーマとした、自民党内の会議でも
当該映像が使用されました。



<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230609/k10014094901000.html>

2023年6月9日 18時56分

日本近海での不漁に歯止めがかかりません。2022年の1年間の水産物の生産量は（養殖含む）、初めて400万トンを下り込み、比較可能な1956年以降、過去最低を更新しました。不漁や漁業者の高齢化で、漁船の数はピーク時からほぼ半減、担い手の数も減っています。そこで今、課題になっているのが、漁業の拠点となる地域の漁港をどう元気にしていくか。キーワードは「漁業から“海業”（うみぎょう）への転換」です。いったいどういうことが取材しました。（サタデーウオッチ9取材班 井上聡一郎・経済部記者 保井美穂）

ただこれまでは魚をとって港に戻ったらイベントは終わり。魚のおいしさをみずから伝えることができないのが悩みでした。

プロジェクトの要所でメディア誘致を実施、エリア内での話題化を狙い、yahooニュースなど計155件配信。
特定地域からお仕事体験プロジェクトの発信を拡げる活動を続けています。

■ 2023年7月22日開催
テトラポッドで私たちの生活を守るお
仕事@茨城県



フジテレビ！！
などにて掲載

■ 2023年7月29日開催
あの名物船長と行く！海中の地形と海
洋生物を調べるお仕事をしよう！



財経新聞
などにて掲載

■ 2023年8月13日開催
サクラエビのゲノム解析をして未来の水
産資源を守るお仕事をしよう！



テレしず
などにて掲載

地元新聞社のほか「水産経済新聞」など海洋分野に特化した専門媒体に取材されるなど、
地域内だけでなく、業界に対して強くPR活動を行っています。
新聞をもとにWEB系ニュースにも掲載され、様々な媒体でプロジェクト内容が拡散されました。

■ 2023年8月19日掲載
世界初！幼魚水族館「館長」のお仕事



静岡新聞にて掲載

■ 2023年8月21日、23日掲載
「コンテナターミナルのお仕事をしよ
う！in清水港」



静岡新聞、海事新聞にて掲載

■ 2023年9月8日掲載
「刺し網漁師のお仕事@神奈川県」



水産経済新聞にて掲載

エリア事務局と連携したお仕事体験において、各地域でのメディアで放映を実施。地域内における海のお仕事体験のブランディング強化を行いました。



一般社団法人 海と日本プロジェクトinながさき

イベント名 ふぐ問屋のお仕事をしよう！
放送日 2024年2月28日 17時58分～18時1分
放送番組名 夕方情報番組「マルッと！」内



イベント名 大村湾漁業協同組合の職員になろう！
放送日 2024年3月27日 11時45分～11時47分
放送番組名 KTN LiveNews days



一般社団法人 海と日本プロジェクトinとっとり

イベント名 【風光明媚！山陰海岸ジオパークをガイドしよう！】
放送日 12月9日（土）11:40～11:45
放送番組名 SEA TOTTORI2023
 【海のお仕事体験「こどもわーく」
 遊覧船ガイドの仕事に挑戦！】



イベント名 鳥取を代表する冬の味覚 絶品極上の蟹に触れて市場体験
放送日 2月14日（水）11:30～11:45
放送番組名 NNNストレイトニュース
 【「松葉がに」が給料！？児童がカニの調理や販売のお仕事体験】



海のお仕事体験プロジェクトこどもわーく
ライフセーバーのお仕事体験

一般社団法人 海と日本プロジェクトinしまね

イベント名 ライフセーバーのお仕事体験
～海の危険・安全・楽しさを体験～

放送日 2023年9月3日(日)21時54分～22時00分

放送番組名 海と日本プロジェクトinしまね



天候、波の様子は急に変わるので注意

イベント名 スキューバダイビング店のお仕事体験
～海の楽しさ・水中の美しさを感じよう！スノーケリングに挑戦～

放送日 2023年10月1日(日)21時54分～22時00分

放送番組名 海と日本プロジェクトinしまね

一般社団法人 海と日本プロジェクトin山形



きょうは体調がいいのか悪いのか

イベント名 ライフセーバーのお仕事を世界チャンピオンから学ぼう@山形県

開催日 2023年8月11日(金・祝)

連携事業者 ビーチボーイズ合同会社

内容 海辺での危険について学び、バギーや水上バイクに乗って実際に海水浴場のパトロールを体験。

放送情報 9月24日～10月10日にテレビCMIにて放送。



お仕事プロジェクト 子供たちが鮭の採捕に挑戦!

イベント名 サケの採捕体験で命をいただく感謝について学ぼう@山形県

開催日 2023年11月25日(土)

連携事業者 箕輪鮭漁業生産組合

内容 遊佐町の箕輪孵化場で、さけや遊佐町の歴史について学び、実際にサケの採捕体験と親子で捌き体験を実施。

放送情報 1月20日～にテレビCMIにて放送。

一般社団法人 海と日本プロジェクトinなごの



イベント名	りょうしさんのおしごとを体験しよう！
開催日	2023年11月12日（日） 13:00～16:00
連携事業者	能生漁協組合
内容	水揚げから出荷までの流れを体験。魚の選別を子供たち自ら行い、漁に必要な仕掛け作りも体験した。
放送情報	2024年2月11日(日) 20：54-21:00 海につながる長野県 にて放送



イベント名	しいくいんさんのおしごとを体験しよう！
開催日	2024年3月25日（月） 10:00～13:00
連携事業者	蓼科アミューズメント水族館
内容	日本一標高の高い水族館で、自然環境に近い水槽環境を作るプロの技を体験。生き物を扱う責任感をプロから伝授。
放送情報	2024年4月29日(月) 15：20-15:40 ふるさとライブ にて放送

参考資料

参加者の声 保護者

・2023年8月5日（深海漁師のお仕事）
 ・50代/女性
 「サメを実際に見れて子どもも楽しんでた。また機会があったら海の仕事を経験させてあげたい」



・2023年8月18日（コンテナターミナルのお仕事）
 ・40代/女性
 「日本の要の仕事でかっこいい。こういった職業があると知っていたら海運関係に進んでいたかも」



・2023年8月19日（潜水士のお仕事）
 ・40代/女性
 「将来、海に関わる仕事に就きたい娘の視野が広がったと思います」



・2023年8月26日（造船）
 ・30代/女性
 「自分の町の港に来る船がどのように作られているのか知れて勉強になったと思います」



・2023年8月26日（大洗漁師）
 ・40代/男性
 「子どもたちが初めて体験することに目を輝かせていて楽しそうでした」



参加者の声 こども

・2023年8月13日（コンテナターミナルのお仕事）
 ・学年/性別
 「コンテナを運ぶためにたくさんの方が努力しているからこそ僕たちは暮らせているんだと感じた」



・2023年8月20日（幼魚水族館のお仕事）
 ・学年/性別
 「餌のやり方や展示方法など、水族館の裏を知り、夢に近づくことができた」



・2023年8月24日（シーチキンのお仕事）
 ・学年/性別
 「シーチキンはこんなに検査を受けてやっとならなくていいと知って、すごいと思った」



・2023年8月25日（造船のお仕事）
 ・学年/性別
 「1枚の板からだんだん組み合わせて船になるのがびっくりした」



・2023年9月16日（深海漁師のお仕事）
 ・学年/性別
 「いろんな生き物に出会えてよかった。ゴミを拾い、生き物が暮らす環境を守りたい」



逗子市では、行政・漁業協同組合が連携して、「漁師のお仕事体験」を3年間自走開催を継続中。海のお仕事体験をきっかけに、水産庁の海業振興モデル地区に選定されました。



「海」「漁港」をどう活用していくか、逗子市として大きな課題でもある。

この日本財団 海と日本プロジェクトのお仕事体験は非常によい機会となっている。子供の時に、あの小坪で漁を体験したから、逗子で住みたい！魚を食べるときに考える様になった、そんな体験を続けていきたいと思う。

逗子市長：桐ヶ谷さん

小坪ではここ数年で急激に魚が獲れなくなっている。このお仕事体験の取り組みは、**副業として十分成り立つし、積極的に取り組んでいきたい。やっぱり、漁以外の収入になる、こういう体験の取り組みとかを考えていけない、暮らしていけない。**



小坪漁港のベテラン漁師



若手漁師

魚や海藻が激減している中で、**天然資源に頼らない形の収益を得る取り組みは、すごく意義のあること**と考えている。また、**子ども達にとって温暖化や海洋問題って、他人事になりがちだけど、仕事体験を通すことで、意外と身近なんだなと覚えてもらう機会**にしてもらえればうれしい。

お仕事体験をきっかけに、「体験した内容をレポートにまとめ、学校で発表した」や「他プロジェクトの体験にも参加した」、「海のことをより広く・深く知るきっかけになった」など、自発的に海のことを学ぶ姿勢や実際に行動に移す子ども達を増やすことに貢献できました。

7月31日開催 駿河湾フェリーのお仕事体験 体験した内容をまとめて学校で発表。



7/31 駿河湾フェリーの お仕事体験 参加したこどもの感想

普段入れない場所（船内アナウンス室・操縦室）や、なかなかできない体験（操縦やアナウンス）ができ、また、実際の人に会えてやれたから、とてもよかった。海に関係のある人を今後、もっと調べたい。



目		目の役割は、物の色や形、動きを感知することです。また、遠くまで見ることができ、危険を察知することもできます。
鼻		鼻の役割は、匂いを感知することです。食べ物の味や危険な匂いを察知することもできます。
舌		舌の役割は、味を感知することです。食べ物の味や危険な味を察知することもできます。
皮膚		皮膚の役割は、触覚を感知することです。物の硬さや温度、痛みなどを察知することもできます。
耳		耳の役割は、音を感知することです。危険な音や人の声などを察知することもできます。
足		足の役割は、歩いたり走ったりすることです。危険な場所を避けることもできます。
指		指の役割は、物を握ったり触ったりすることです。危険なものを握らないようにすることもできます。



お仕事体験を通じて、海に興味を持ち、「海のキッズサポーター」への参加、23年度には「深海研究スーパーキッズ」にて海洋研究賞を受賞！



参加したお仕事体験

- ・海の手配師（×2回）
- ・深海漁師
- ・わかめ漁師
- ・海上保安部
- ・柿田川湧水の環境を守る
- ・深海水槽PR
- ・幼魚水族館
- ・はごろもフーズ
- ・ドローン開発
- ・サンゴ保全
- ・サクラエビゲノム解析

Kさんファミリーのコメント

- ・参加を重ねるごとに「海に関する知識」に自信がつき、人前で発言できるようになった
- ・水族館など表側の仕事を希望していたが、今では裏側（手配など）に興味が出てきた
- ・様々な海で働く大人たちの関わりを通して、親も子も視野がとて広がる体験ができている

参加者からの感謝メール

参加されたファミリーより、「子どもの思い出に強く印象が残ったようで、学校の絵日記の宿題にて、自らお仕事体験の思い出を書いていた。いつも表面だけの短い文章ばかりなのに、裏側まで書いてあったので驚いている」「魚をさばくことに興味を持ち始め、親と一緒に初めて釣りに出かけ、自ら手開きの方法を自ら調べて開いた」と参加した複数の親御様より感謝のコメントを頂戴しました。

